



せ と ない かい ひめ しま
瀬戸内海姫島の海村景観

No.44-04

所在地：大分県姫島村 選定年月日：令和3年3月26日 面積：13462.3ha 選定基準：一(八)

(1) 概要

大分県北端、姫島村の村域である姫島全域とその周辺海域から成る文化的景観です。瀬戸内海の西端部かつ九州を縦断する火山フロント上に浮かび、その位置は周防灘(すおうなだ)と伊予灘(いよなだ)の境にもあたります。そのため、噴火時の形状を留める火山群を広い砂州が繋ぐ、瀬戸内海では特異な姿を持ちます。この島の容姿が、砂州上の松と共に、海からの目標物であり続けている点に特徴があり、自然環境に大きな負荷をかけることなく漁業や塩業、農業を営んできたことを伝えています。

島内では、二つの村社が瀬戸内海や国東(くにさき)半島との歴史的な繋がりを想起させます。その周囲に形成された集落はいずれも、近海を中心に季節や潮汐に合った漁を通年で営み、漁港周りに漁具倉庫、恵美須社(えびすしゃ)、盆坪(ぼんつぼ)等の共通の設えを見せます。また、塩業や農業の歴史、生活慣習、伝承等に関わる建造物や自然物等が残ります。

このような要素が地形と共につくる景観は、島と海の資源を目一杯生かしながら複数の生業を営んできた海村の生活や文化を表わし、また、漁業期節に代表される生物資源管理の約束事を、島全体で守り、一島一村として自立的に過ごしてきた歴史を伝えるものであり、独特です。



姫島全景



西浦の恵美須社

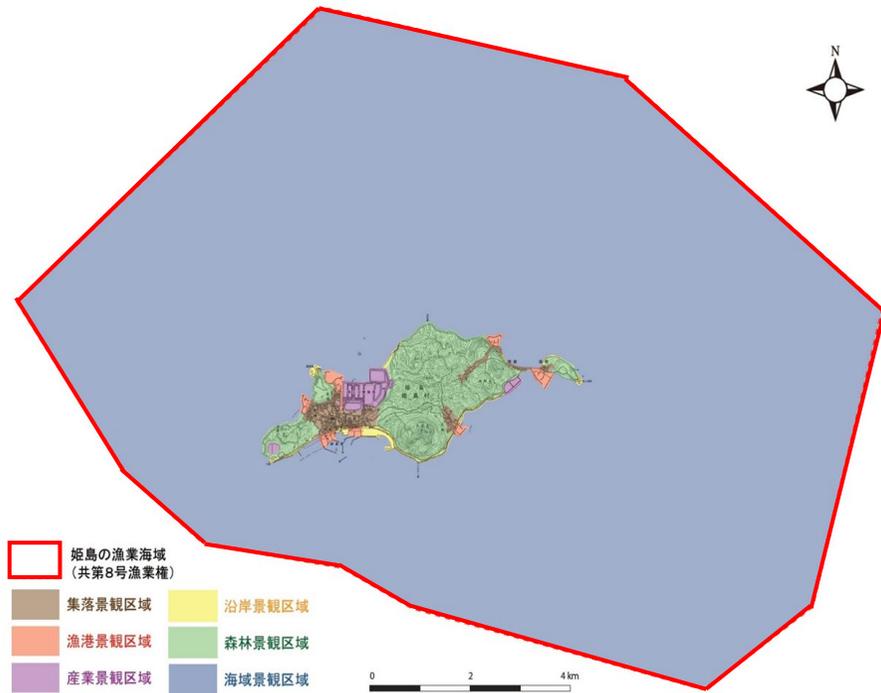


主屋や附属屋で囲む中庭を作業場とする
伝統的な敷地配置



島内全集落を踊り廻る「姫島の盆踊」と
そのための盆坪と呼ばれる広場

（２）選定範囲



重要文化的景観の選定範囲

- 重要な構成要素：22件
- 国指定等文化財：姫島の黒曜石産地（天然記念物）、姫島の盆踊（選択無形民俗文化財）

（３）選定による効果

姫島村は、平成25年に「おおいた姫島ジオパーク」として、「日本ジオパークネットワーク」に加盟認定されたことをきっかけに、重要文化的景観の選定を目指した取り組みをはじめました。調査や保存計画策定を進めていく中で、島の住民にとっての日常風景が貴重であり、姫島独特の景観（漁村ではなく「海村」）である、という大きな気づきがありました。調査では、村民が長く培ってきた島ならではの生活が変遷する過程をものがたる歴史資料なども多く発見されました。

選定後は、景観の継承のために整備活用委員会を発足し、文化的景観の価値を伝えるパンフレットや調査成果の概要版を作成しました。

また、ジオパーク関連イベントなどの参加を通して、住民だけでなく村外の方への周知活動もしています。姫島村文化祭では、調査時に発見された写真をもとに過去と現在の景観を比較できる展示を行い、大勢の住民が見学に訪れました。



姫島村文化祭写真展示の様子

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 瀬戸内海姫島の海村景観調査報告書（平成30年3月、姫島村）
- 瀬戸内海姫島の海村景観保存活用計画（令和2年3月、姫島村）
- 姫島村文化的景観整備活用委員会発足（令和5年1月、姫島村）
- ホームページ <https://www.himeshima.jp/>

(5) 活用事例

事例44-04 ①

「ゆったり×最先端のリモートワーク」を掲げる離島における新しい雇用の創出

●行政と住民等の協働による取り組み

姫島ITアイランド構想は、「離島を舞台にした新しい雇用の形を創り、地域の活力を高めたい」という大分県と姫島村の思いから生まれたプロジェクトです。

都市部と変わらない情報通信環境の整備

平成29年から令和元年にかけて、旧姫島小学校校舎を活用し、サテライトオフィス7部屋とコワーキングスペースを3カ所持つ「姫島ITアイランドセンター」を整備しました。現在、サテライトオフィスには2社が入居しており、社員は12名中7名が姫島出身者です。コワーキングスペースは、姫島に関心を持っている企業や個人が、短期間試行的に業務を行うことができる施設です。また令和2年には、村内全域の光ファイバー網を更新し、ブロードバンド環境を整備しました。これにより、各家庭の通信速度が格段に速くなり、テレワークも問題なくできるようになりました。令和3年には、村内の主要施設や観光スポットにWi-Fiを整備し、観光客などの利便性の向上を図りました。



旧小学校校舎を活用した姫島ITアイランドセンター

企業・人材が定着するための支援

姫島村への移住を促進するため、移住希望者向けのウェブサイト構築やPR動画の製作、移住ガイドブックを作成して情報発信するとともに、住宅支援として、村営住宅の活用、空き家バンク制度の創設、空き家の購入・改修費用などに係る補助制度を導入しました。

企業・人材が定着するための支援

島外の企業・人材を呼び込むため、LINEによる鮮魚の直売プロジェクト、小型電気自動車やスマートシティプラットフォームの実証実験など、先駆的なプロジェクトの創出に取り組む事業者への支援を行っています。また、IT企業に姫島への興味を持ってもらうため、セミナー、企業交流ワークショップ、プログラミングキャンプなどのイベントを開催しました。さらに、国主催のサテライトオフィスマッチングセミナー等、首都圏で開催される企業とのマッチングイベントやWEB・SNSなどを通じた情報発信に取り組み、「姫島ITアイランド」としてのブランディングを図っています。



ホームページ (<https://www.himeshima-it.jp/>)



プログラミング教室の様子

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 広域外への
情報共有

④ 魅力を引き
出す

⑤ 資源と
運用

⑥ 人づくり

(5) 活用事例

事例44-04 ②

ジオパークのガイドによる文化的景観の勉強会の実施

●行政と住民等の協働による取り組み

地域の景観の魅力を守り継承していくためには、地域の住民自身が自分の言葉で語り継いでいくことが必要です。また、文化的景観を観光に活かす際には、来訪者とのトラブルを防ぐためにも、地元をよく知っているガイドが案内することが必要です。

現在、ジオパークのガイドとして活躍している住民の方に、地域の文化的景観の魅力伝えるポイントを学んでもらい、ガイドに活かすための勉強会を行いました。

今後、ガイドが案内して文化的景観を見学する村あるきなどのコースを作り、文化的景観を観光に活かすとともに、地域住民には景観の魅力を再確認し、大事にする気持ちを持ってもらう取り組みを行っていきます。

住民の声

ジオガイドの方が、我々村民に対して、案内するときに、わざと姫島の方言を交えて、説明してくれるのでわかり易いです。



ガイド勉強会で文化的景観を学ぶ様子

団体等情報： おおいた姫島ジオパーク推進協議会
 おおいた姫島ジオパーク | ジオパークとは | 日本ジオパークネットワーク (geopark.jp)
 ジオパーク | 大分県姫島村 (himeshima.jp)

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す開発

⑤ 資源の確保と運用

⑥ 人づくり